

学則の変更の趣旨を記載した書類

1. 学則変更（収容定員変更）の内容

名古屋大学医学部医学科の平成 20 年度以降の入学定員については、平成 21 年度に「緊急医師確保対策」に基づき平成 29 年度までの期限を付した 3 名の臨時定員増を、また、同年度に「経済財政改革の基本方針 2008」に基づき 5 名の恒久定員増を、また、平成 22 年度に経済財政改革の基本方針 2009 を踏まえた「地域の医師確保等の観点からの医学部入学定員の増加について」に基づき平成 31 年度までの期限を付した 4 名の臨時定員増をそれぞれ実施した。また、平成 29 年度を期限とする 3 名の入学定員について、平成 31 年度までの期限を付した再度の入学定員増を実施した。

令和 2 年度において、「経済財政運営と改革の基本方針 2018」を踏まえた「地域の医師確保等の観点からの令和 2 年度医学部入学定員の増加について」に基づき、令和 3 年度までの期限を付した 7 名の臨時定員増を行い、令和 2 年度の入学定員を再度の定員増を行わなかった場合の 100 名から 107 名に変更する。これにあわせて、収容定員についても平成 31 年度までの期限を付した臨時の入学定員増を踏まえ、再度の定員増を行わなかった場合の 620 名から 634 名に変更する。

2. 学則変更（収容定員変更）の必要性

今日の日本の医療は、ますます高度化するとともに、社会からの需要は多様化し量的にも増加している。必要な医療を適正に提供するためには、多様な医師の確保が必要不可欠な状況である。

このような医療を取り巻く状況に対応するため、名古屋大学医学部医学科では、以下のような措置を行っている。

1) 地域の医師確保

愛知県との連携による寄附講座である地域医療教育学寄附講座を設置して、地域医療を担う指導的・中心的人材の育成の使命を果たし、地域医療に従事する明確な意思をもった学生の選抜枠として平成 21 年度から新たに後期選抜日程を設けて、学生を選抜し、受け入れている。

後期選抜日程では、医学部医学科の入学定員のうち、「緊急医師確保対策」に基づく 3 名を含む、5 名を地域医療を担う人材である地域枠として募集しているところであり、この 5 名は、特別枠として、六年一貫教育カリキュラム、本学による臨床研修・研究支援体制の充実及び愛知県からの奨学金貸与により医学部卒業後、愛知県の指定する公的病院での専門医（勤務医）を目指し、一定の期間医療に従事する等の義務を果たすことにより、奨学金の返還が免除される制度を活用して地域定着を図るものである。

入学者選抜方法は、後期選抜日程により行い、大学入試センター試験の成績と調査書及び志願理由書により第 1 段階選抜合格者を決定し、第 1 段階選抜合格者に対して、愛知県の医療行政を担当する県職員を含む面接試験委員

2 グループによる口頭試問を行って選抜することとし、総合的に地域医療に対する強い熱意と献身の姿勢を持つものを選抜する（別添資料参照）。

2) 研究医養成

平成 20 年度入試から、推薦選抜に関し、「特に医学研究者への志向性を持ち、例えば本学の MD・PhD コースへの進学を希望するような人材」を出願資格・要件として求めていることを入学者選抜要項及び学生募集要項に明記して募集を行っている。平成 22 年度入試からは、「研究医養成のための入学定員増」分 2 名を加え、計 12 名を研究医枠として募集している。

入学後は、推薦入学者専用の基礎セミナーの受講を義務づけ、研究医に必要な素養を身につけさせている。また推薦入試で選抜した 12 名と、一般入試の学部学生のうち希望者を対象に、学生研究会ベーシックコースとアドバンスコースを提供している。早期の大学院進学を希望する学部学生に対して MD PhD プレプログラム（4-6 年次）を、大学院進学者に対して MD PhD コースを提供している。

入学者選抜方法は、推薦入試により行い、第 1 次選考は、提出された志願理由書、推薦書及び調査書並びに大学入試センター試験の成績により約 20 名の第 1 次選考合格者（面接選考の受験有資格者）を決定する。第 2 次選考は、第 1 次選考合格者に対し、和文と英文の課題を設定し、プレゼンテーションと口頭試問による面接を実施し合格者を決定する（別添資料参照）。

3. 学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容

1) 地域の医師確保

地域医療への関心を高めるため、地域枠学生について、次のとおりカリキュラムの充実を継続して取り組み、地域親和性の高い医学生の養成に努める。

- (1) 課外カリキュラムとして、全学年参加の「地域医療セミナー」を年 5 回実施する。
- (2) 夏季休暇期間に 1~4 年生が学年混合班で「地域医療病院見学」を実施する。
- (3) 3 年生の「基礎医学セミナー」において、愛知県との連携による地域医療教育学寄附講座に 6 カ月間所属し、臨床研究に携わる。
- (4) 4 年生の選択講義で、ワークショップ「地域における多職種連携教育」という科目を実施し、地域の医療機関において看護・薬学・リハビリテーション科等の他専門職とどう協働していくべきかをワークショップ形式で学ぶ機会を提供する。
- (5) 6 年生では、7 週間にわたり愛知県内の地域医療病院で実習を行い、実習期間中には指導教員が 2 回ずつ指導と状況把握のために訪問する。

また、地域への定着率をより高めるため、平成30年度入学者選抜から出願要件として、入学志願者の出身高等学校等が愛知県であること、又は出願時に入学志願者の保護者の現住所が愛知県内であることを新たに追加した。

2) 研究医養成

研究医への関心を高めるため、研究医枠学生について、次のとおりカリキュラム等の充実を継続して取り組み、質の高い研究医の養成に努める。

(1) 1年生の「基礎セミナーA, B」に推薦入学者専用のクラスを用意し、早い段階で医学研究への関心を高め、研究医としての素養が身につくようにしている。

また「医学入門」では、全員が各研究室において基礎医学体験実習を行うこととなっている。

(2) 3年生の「基礎医学セミナー」において、全員が基礎系および社会医学系の講座・部門に配属され指導を受ける。3月には全員が発表会（口頭発表またはポスター発表）を行い、教員と学生からなる審査委員より評価を受け、優秀な成果を挙げた学生の選出が行われる。優秀学生は海外の学会や研究室へ派遣され、さらなる発表の機会を得られる。

(3) 正規科目以外の取組みとして学生研究会を設置し、2つのプログラムを実施している。

①ベーシックコース

研究室訪問や休暇中の研究体験などを企画し、医学研究の魅力を伝えるとともに3年生後期の基礎医学セミナーに備えた研究室選択や準備が出来るようにしている。研究医コース（推薦入学者）12名は必修。その他の学生は任意。

②アドバンスドコース

学会発表や研究室訪問の費用サポートや全国学生リトリートを行い、研究室所属学生のサポートを行っている。参加は任意。

(4) 早期の大学院進学を希望する学部学生に対してMD PhDプレプログラム（4-6年次）を用意し、実験と大学院講義の受講を行えるようにしている。また、特に優秀で本人が希望する場合は、学部4年次終了後から大学院に進学できる、学部挿入型のMD PhDコースも用意している。

医学部医学科の後期日程について

国の施策に基づき、愛知県内の地域医療を担う人材を育成するため、本学医学部医学科において、後期日程試験により5名を募集します。

本選抜の出願要件は、(注1)愛知県内出身者で卒業後に愛知県内の地域医療に従事しようとする強い意欲を持つ者とし、これには、愛知県内出身者の高校既卒者等も志願することができます。

本選抜で入学した者は、愛知県から月額15万円程度の奨学金貸与を受けることが必須となります。また、卒業後は、愛知県内の基幹型臨床研修病院のプログラムに基づく2年間の研修と、愛知県が指定する(注2)公的医療機関等における7年間の勤務とを合わせて9年間の地域医療に従事することを義務としています。また、愛知県では義務年限等に関する取扱いを規定した(注3)「キャリア形成プログラム」を策定しており、このプログラムに参加する必要があります。

さらにカリキュラムについては、正規カリキュラムの一部科目の履修指定及び課外学習から構成される「地域医療に関するカリキュラム」の履修を義務付けています。正規カリキュラムにおいては、3年次の基礎医学セミナーや4年次の選択講義等で、地域医療教育学講座が担当する授業の選択が必須となります。また、課外実習として、地域医療セミナー(年6回程度開催)や愛知県主催の研修会への参加も義務付けられています。

なお、「地域医療に関するカリキュラム」は年度ごとに見直されるため、カリキュラム・課外学習等の変更があり得ます。

注1 後期日程(医学部医学科)に出願することができる者は、14～15頁の出願資格を有し、かつ、以下の要件のいずれかを満たす者とし、

1. 入学志願者の出身高等学校又は中等教育学校が愛知県内であること
2. 入学志願者の保護者の現住所が出願時に愛知県内であること

注2 愛知県内の医師の確保が困難な地域に所在する公的医療機関及び独立行政法人が開設する県内の医療機関のうち、知事が指定する医療機関で、「地域の中核病院」などを想定しています。

注3 「キャリア形成プログラム」については、[URL: <http://www.pref.aichi.jp/soshiki/imu/kyariakeisei.html>]に掲載されています。

【卒業後の勤務パターン（一例）】

下表により卒業後の勤務パターンの一例を示します。

大学1年生

大学6年生

在学期間 6年間	県内で 臨床研修 (2年間)	知事の承認を受けて 専門医(後期)研修 (3~4年以内) [うち2年間で 義務年限に算入(*)]	県の指定する 公的医療機関等に 勤務① (2年間)	県の指定する 公的医療機関等に 勤務② (3年間)	県の指定する 公的医療機関等に
-----------------	--------------------------	--	------------------------------------	------------------------------------	--------------------

※知事が指定する専門医研修の場合は、2年間で義務年限に算入できます。

義務年限に算入されない専門医研修の場合は、公的医療機関等での勤務が増えます。(③の勤務あり)

このほかに、専門研修の開始時期は、本人の希望により柔軟に対応できます。例えば、県内で2年間研修し、県の指定する公的医療機関等に2年間勤務した後に、専門研修を経て、県の指定する公的医療機関等に勤務することも可能です。

地域枠医師が医師不足病院へ赴任する際に、愛知県が地域枠医師に対して望む診療科（推奨する診療科）は以下のとおりとする。

- 「地域医療連携のための有識者会議（平成25年3月29日開催）」において決定された推奨する診療科
 - ・内科系（内科，総合内科，呼吸器内科，循環器内科，消化器内科，神経内科）
 - ・外科系（外科，消化器外科）
 - ・整形外科
 - ・救急科
 - ・麻酔科
 - ・小児科
 - ・産婦人科
- 「平成27年度第2回愛知県地域医療支援センター運営委員会（平成28年3月29日開催）」において追加決定された推奨する診療科
 - ・総合診療

推薦入試

医学部医学科

(1) 募集人員

12名

(2) 出願資格・要件

次の各号のいずれかに該当する者で、特に医学研究者への志向性を持ち、例えば本学の「MD・PhD コース【注】」への進学を希望するような人材であり、調査書の学習成績概評がAに属し、学習成績・人物ともに特に優秀で、**学校長等から④として責任ある推薦を受け、合格した場合には必ず入学することを確約できる者**。さらに「平成31年度大学入試センター試験」の教科・科目のうち**当学部・学科が指定した教科・科目（26～28頁参照）を受験している必要があります**。

- ① 高等学校又は中等教育学校を平成31年3月卒業見込みの者
- ② 学校教育法施行規則第93条第3項の規定に基づき平成30年度中に高等学校又は中等教育学校を卒業又は卒業見込みの者
- ③ 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を平成30年4月から平成31年3月までに修了又は修了見込みの者

なお、各高等学校等から推薦できる人数は、1名とします。

【注】「MD・PhD コース」の詳細については、本学医学部ホームページ (<http://www.med.nagoya-u.ac.jp/>)→名古屋大学大学院医学系研究科・医学部医学科→博士課程教育プログラムMD・PhD コースを参照してください。

(3) 選抜方法

- ① 選抜は、第1次選考と第2次選考により行います。
 - ア 第1次選考は、提出された志願理由書、推薦書及び調査書並びに大学入試センター試験の成績により約20名の第1次選考合格者（面接選考の受験有資格者）を決定します。
 - イ 第2次選考は、第1次選考合格者に対し、和文と英文の課題を設定し、プレゼンテーションと口頭試問による面接を実施し合格者を決定します。
- ② 第1次選考結果は、平成31年2月8日(金)13時に名古屋大学医学部医学科基礎研究棟1階中央通路(鶴舞地区)(54頁配置図参照)での掲示及び本学ホームページにより発表しますので、必ず確認するようにしてください。(内容は同一のものです)
本学ホームページでの発表は、トップページ (<http://www.nagoya-u.ac.jp/>) の「大学からのお知らせ(受験生向け)」からご覧になれます。(パソコン又はスマートフォンが必要です)
- ③ 第2次選考(面接)は、次により行います。(任意で提出を求める書類(※6参照)はおもに面接の際の参考資料として使用します。)

実施日：平成31年2月11日(月)

実施場所：名古屋大学医学部医学科 名古屋市昭和区鶴舞町65 [電話 (052) 744-2430]

第1次選考合格者は、「名古屋大学推薦入試受験票」及び「大学入試センター試験受験票」、筆記用具及び昼食を持参の上、医学部医学科基礎研究棟3階第1講義室(54頁配置図参照)に集合し、係員の指示に従ってください。

なお、集合時間等は、第1次選考結果発表時に指示します。

(4) その他

① 研究医(医師免許を持つ研究者)奨学金制度について

研究医を目指し、大学院(MD・PhDコースを含む。)へ進学する者への経済的支援を図るため、国の政策に基づいた奨学金制度を設けております。

② 推薦入試合格者の本学医学部医学科一般入試における取り扱いについて

本学医学部医学科の一般入試において第1段階選抜が実施された場合、同入試に出願している医学部医学科の推薦入試合格者は、第1段階選抜の不合格者として取り扱います。

※6 任意で提出を求める書類(医学部医学科)

① 英語力を示す各種試験のスコア(TOEFL, IELTS, 英検等)

② 国際バカロレアのスコア

③ スーパーグローバルハイスクール(SGH)・スーパーサイエンスハイスクール(SSH)における活動状況

④ グローバルサイエンスキャンパス(GSC)における活動状況

⑤ 科学研究に関する活動を積極的かつ継続的に行い、その成果や活動を客観的に示すことができるもの(例えば生物学オリンピック出場歴等)

地域医療に関する学部教育のカリキュラムの概要

学年	科目名	授業期間	授業場所	教育内容等
1年次	医学入門	前期：4～7月 後期：10～1月	医学部、医学部附属病院及び学外各施設	①教科書を基にした医学生物学の基礎の講義、特別講義としての心構え、倫理、患者の視点での終末期医療のあり方等の学習 ②早期体験実習として、附属病院での医師シャドーイング、看護実習 ③障害者施設又は老人養護施設での介護実習等を通じ、医療の現場に触れる。 ④地域医療教育学寄附講座教員や地域医療や医師不足が深刻な診療科の一線で活躍する医師を外部講師に招いて地域医療関連特別講義を導入
2年次				
3年次	基礎医学セミナー	10～2月	医学部基礎医学系及び社会医学系の各講座・部門、地域医療教育学寄附講座	講義から解放され、研究に専念することとなり、配属された講座・部門において、与えられた研究テーマを掘り下げ、実験実習や研究を進める作業のなかで、科学的思考方法を学ぶとともに、一線の研究者の生身の姿に触れる機会を与える。
4年次	各科必修系統講義	前期：4～7月 後期：9～2月	医学部講義室及び実習室	①地域医療教育学寄附講座教員のほかに、地域医療や医師不足が深刻な診療科の一線で活躍する医師を外部講師に招いて、地域医療や医師不足が深刻な診療科に関する知識、病院総合医の重要性など、医療ニーズに応じた医学医療知識を習得する講義を行う。 ②地域プライマリ・ケアに関する講義を行う。
5年次	臨床実習Ⅰ	前期：4～7月 後期：9～3月	愛知県内の地域中核病院、地域医療教育学寄附講座	①医師不足が顕著な中規模病院を選定して臨床実習を行い、地域医療の現状を体感する。 ②地域医療教育学寄附講座にて、名古屋大学の医学部生及び看護学生、名城大学と金城学院大学の薬学部生を交えて、地域における医療や在宅医療をテーマとした多職種連携教育を小グループで実施する。
6年次	臨床実習Ⅱ	4～7月	指導医かつロールモデルとしての総合医がいる愛知県内の地域中規模病院	病院総合医としての基本的臨床能力を習得する目的で、臨床実習を行う。さらに産科、小児科、救急科のプログラムを地域医療機関との連携を踏まえて改良を加えることで学生にそれら診療科の魅力を積極的に伝える。

研究医に関する学部教育のカリキュラムの概要

学年	科目名	授業期間	授業場所	教育内容等
1年次	医学入門	前期：4～7月 後期：10～1月	医学部、医学部附属 病院及び学外各施設	①特別講義：研究者が研究内容や自身の キャリアパスを講義することで、学生の 研究マインドを涵養する。 ②基礎医学体験実習：早期体験実習とし て、基礎医学系研究室での研究者シャ ドーイングを行う。
	基礎セミナーA (推薦入学者用)	4～7月	医学部	医学研究を遂行する上で必要な文献検索 ならびに論文精読方法を習得する。 医学生物学研究において高いインパクト を持つ論文を精読しプレゼンテーショ ンを行うことにより、論文読解能力を体得 するとともにプレゼンテーション技法を
	基礎セミナーB (推薦入学者用)	10～2月	医学部	研究者を目指すための準備段階として、 医学研究の実際を知る。 あらかじめ当該研究室の論文を読んで疑 問点を整理し、さらに論文著者に直接質 問することを通じて、研究の目的、方 法、結果などについての理解を深める。
2年次				
3年次	基礎医学セミナー	10～2月	医学部基礎医学系及 び社会医学系の各講 座・部門、地域医療 教育学寄附講座	講義から解放され、研究に専念すること となり、配属された講座・部門におい て、与えられた研究テーマを掘り下げ、 実験実習や研究を進める作業のなかで、 科学的思考方法を学ぶとともに、一線の 研究者の生身の姿に触れる機会を与え
4年次				
5年次				
6年次				

令和2年度
医学部入学定員増員計画

名大医学第86号
令和元年9月9日

文部科学省高等教育局長 殿

名古屋大学総長 松尾 清



「地域の医師確保等の観点からの令和2年度医学部入学定員の増加について（令和元年9月2日文部科学省高等教育局長・厚生労働省医政局長通知）」を受けて、標記に関する資料を提出します。

<連絡先>

責任者連絡先	職名・氏名	医学部・医学系研究科学務課長 今枝 明光
	TEL	052-744-2421
	FAX	052-744-2521
	E-mail	Imaeda.akimitsu@adm.nagoya-u.ac.jp

大学名	国公立
名古屋大学	国立

1. 現在(令和元年度)の入学定員(編入学定員)及び収容定員

入学定員	2年次編入学定員	3年次編入学定員	収容定員
107	0	5	662

↑
(収容定員計算用)

	H26	H27	H28	H29	H30	R1	計
(ア)入学定員	107	107	107	107	107	107	642
(イ)2年次編入学定員	0	0	0	0	0	0	0
(ウ)3年次編入学定員	5	5	5	5	0	0	20
計	112	112	112	112	107	107	662

2. 本増員計画による入学定員増を行わない場合の令和2年度の入学定員(編入学定員)及び収容定員

入学定員	2年次編入学定員	3年次編入学定員	収容定員
100	0	5	620

↑
(収容定員計算用)

	R2	R3	R4	R5	R6	R7	計
(ア)入学定員	100	100	100	100	100	100	600
(イ)2年次編入学定員	0	0	0	0	0	0	0
(ウ)3年次編入学定員	5	5	5	5	0	0	20
計	105	105	105	105	100	100	620
(臨時的な措置で減員した場合、その人数)							

3. 令和2年度の増員計画

入学定員	2年次編入学定員	3年次編入学定員	収容定員
107	0	5	634

↑
(収容定員計算用)

	R2	R3	R4	R5	R6	R7	計
(ア)入学定員	107	107	100	100	100	100	614
(イ)2年次編入学定員	0	0	0	0	0	0	0
(ウ)3年次編入学定員	5	5	5	5	0	0	20
計	112	112	105	105	100	100	634
(臨時的な措置で減員した場合、その人数)							

増員希望人数 7

↑
(内訳)

(1) 地域の医師確保のための入学定員／編入学定員増(地域枠)	5
(2) 研究医養成のための入学定員／編入学定員増(研究医枠)	2
(3) 歯学部入学定員の削減を行う大学の特例に伴う入学定員／編入学定員増(歯学部振替枠)	0
計	7

1. 地域の医師確保のための入学定員増について

増員希望人数

(1) 対象都道府県名及び増員希望人数

	都道府県名	増員希望人数
大学が所在する都道府県	愛知県	5
大学所在地以外の都道府県		
計		5

※「大学所在地以外の都道府県」が5都道府県未満の場合は、残りの欄は空欄でご提出ください。

(2) 修学資金の貸与を受けた地域枠学生の確保状況

都道府県名	H30地域枠定員 (※1)	H30貸与者数 (※2)	R1地域枠定員 (※1)	R1貸与者数 (※2)	H30とR1の貸与者数のうち多い方の数
愛知県	5	5	5	5	5
					0
					0
					0
					0
					0
計	5	5	5	5	5

(※1) 臨時定員分のみご記入ください。

(※2) 恒久定員の中で地域枠を実施している場合、恒久定員分の地域枠の人数も含めた修学資金の貸与実績をご記入ください。

※6都道府県未満の場合は、残りの欄は空欄でご提出ください。

(3) 令和2年度地域の医師確保のための入学定員増について

1. 大学が講ずる措置

1-1. 地域枠学生の選抜

① **令和元年度に実施した**地域枠学生の選抜について、下記をご記入ください。複数種類の選抜を行った場合には、それぞれご記入ください。また、参考として学生募集要項の写しをご提出ください。

名称	入試区分	選抜方式	募集人数		選抜方法(※1)	出願要件(※1)	開始年度	備考
				うち臨時定員分				
愛知県地域枠	(iii)一般入試地域枠(前期・後期)	別枠(区別型)	5	5	選抜方法: 大学入試センター試験, 志願理由書, 調査書及び面接により総合的に行います。※この選抜は, 愛知県内の地域医療を担う人材の育成を目指すものです。	後期日程(医学部医学科)に出願することができる者は, 出願資格を有し, かつ, 以下の要件のいずれかを満たす者とします。1. 入学志願者の出身高等学校又は中等教育学校が愛知県内であること 2. 入学志願者の保護者の現住所が出願時に愛知県内であること	H21以前	
合計			5	5				

(※1) 貴大学の学生募集要項の事項をそのままご記入ください。

※空欄がある場合は、何も記入せずにそのままご提出ください。

② **令和2年度に実施する**地域枠学生の選抜について、下記をご記入ください。複数種類の選抜を行っている場合には、それぞれご記入ください。また、参考として学生募集要項の写しをご提出ください。

名称	入試区分	選抜方式	募集人数		選抜方法(※1)	出願要件(※1)	開始年度	備考
				うち臨時定員分				
愛知県地域枠	(iii)一般入試地域枠(前期・後期)	別枠(区別型)	5	5	選抜方法: 大学入試センター試験, 志願理由書, 調査書及び面接により総合的に行います。※この選抜は, 愛知県内の地域医療を担う人材の育成を目指すものです。	後期日程(医学部医学科)に出願することができる者は, 出願資格を有し, かつ, 以下の要件のいずれかを満たす者とします。1. 入学志願者の出身高等学校又は中等教育学校が愛知県内であること 2. 入学志願者の保護者の現住所が出願時に愛知県内であること	H21以前	
合計			5	5				

(※1) 貴大学にて作成予定の学生募集要項の事項をそのままご記入ください。

※空欄がある場合は、何も記入せずにそのままご提出ください。

1-2. 教育内容

①地域枠学生が卒後に勤務することが見込まれる都道府県での地域医療実習など、地域医療を担う医師養成の観点からの教育内容の概要(令和2年度)について、5～6行程度で簡潔にご記入ください。

1年次開講の医学入門において、地域医療教育学講座教員等による地域医療関連特別講義を学ぶ。3年次開講の基礎医学セミナーにおいて、半年間、愛知県との連携による地域医療教育学講座に所属し、地域医療の現場で求められる能力を身につける機会を持つ。4年次冬～6年次の臨床実習において、病院総合医としての基本的臨床能力を習得する目的で実習を行う。なお、5年次、6年次の選択臨床実習では、地域枠学生は指定された県内地域病院での実習が必須となっている。

(参考:記入例)

1～2年次には、「○○」という科目を開講するとともに「△△」を必修化し、～～を学んでいる。3～4年次には、××実習を行い、～～を学んでいる。またキャリア支援として□□を実施している。令和2年度からは、■を新たに開始するなど、～～を図ることとしている。

②(過去に地域枠を設定したことがある場合)これまでの取組・実績を、3～5行程度で簡潔にご記入ください。

平成21年度から地域枠による増員を開始し、卒業後に赴任する可能性のある県内地域医療機関への見学などの取り組みを行ってきた。令和元年度までに総計50名の地域枠学生を確保し、そのうち19名が後期研修医、初期研修医として地域医療に貢献している。令和2年度からは、第一期生が本格的に地域の病院に赴任し、地域医療の実践に携わる予定である。

(参考:記入例)

平成○年度から地域枠による増員を開始し、□□、■●などの取組を行ってきた。令和元年度までに△名の地域枠学生を確保し、そのうち▲名が現在～～として地域医療に貢献している。

③上記①の教育内容(正規科目)について、講義・実習科目内容をご記入ください。また、参考としてシラバスの写しをご提出ください。

対象学年	講義・実習名	対象者 (※1)	必修/選択の別		講義/実習の別	単位数	開始年度
			地域枠学生	その他の学生			
1年次	医学入門	全員	必修	必修	講義	4	H21以前
3年次	基礎医学セミナー(地域医療教育学配属)	地域枠学生	必修	選択	実習	12	H21以前
4年次、5年次	臨床実習Ⅰ	全員	必修	必修	実習	39	H21以前
5年次、6年次	選択臨床実習	全員	必修	必修	実習	24	H21以前
4年次	地域医療学	全員	必修	必修	講義	0.5	H21以前
4年次	選択特別講義	全員	選択必修	選択必修	実習	2単位以上	H22
4年次	選択臨床実習(地域連携病院)	地域枠学生	必修	選択	実習	3	H22

(※1)対象者は、当該講義・実習を受講可能な学生を「地域枠学生」「全員」のうちから選択ください。(地域枠学生の希望者のみの場合は、対象者を「地域枠学生」、必修/選択の別を「選択」とご記載ください。※空欄がある場合は、何も記入せずそのままにご提出ください。

④大学の正規科目以外で、提供する地域医療教育プログラムがあれば、その内容をご記入ください。

対象学年	プログラム名	対象者 (※1)	都道府県との連携	期間 (例:○週間)	プログラムの概要(1~2行程度)	開始年度
1年次~4年次	地域医療セミナー	地域枠学生	県に内容を報告し助言を得ている。	年5回	地域医療に必要な学びを得る場として、病院見学報告会や地域医療の現場で活躍する医師の講演会等を実施している。	H21以前

(※1)対象者は、当該講義・実習を受講可能な学生を「地域枠学生」「全員」のうちから選択ください。

※空欄がある場合は、何も記入せずにご提出ください。

⑤上記③④以外に、地域医療を担う医師の養成に関する取組等があれば、簡潔にご記入ください。(令和元年度以前から継続する取組を含む)(1~2行程度)

取組の名称	取組の概要(1~2行程度)	開始年度
愛知県地域枠学生研修会	年2回県内4大学地域枠学生を集め、卒後キャリア情報の説明や先輩医師講演、グループワーク等で、モチベーションの維持向上に努めている。	H21以前
入学式後のオリエンテーション	地域枠学生のみを対象として、地域医療教育学講座から、6年間のカリキュラム及び地域枠について概要を説明する。同日、愛知県担当者からのオリエンテーションも行なっている。	H21以前
卒業式後の送別会	地域枠学生のみを対象として、講座で花束贈呈とともに卒業後の連絡先について確認している。	H26

※空欄がある場合は、何も記入せずにご提出ください。

2. 都道府県等との連携

①都道府県が設定する奨学金について、以下をご記入ください。併せて、都道府県が厚生労働省に提出する予定の地域の医師確保等に関する計画及び「地域における医療及び介護の総合的な確保の促進に関する法律」(平成元年法律第64号)第4条に規定する都道府県計画等に位置づけることを約束する文書を添付して下さい。
なお、複数の奨学金を設定している場合は、それぞれ記入ください。

奨学金の設定主体	貸与人数	貸与対象	貸与額 (例:200,000)		返還免除要件	選抜方法		診療科の限定の有無	(診療科の限定がある場合) その診療科名	備考
			月額	総貸与額		選抜時期	大学の関与の有無(※1)			
愛知県	5	新入生	約154,000	11,100,000	愛知県内で臨床研修を行い、直ちにその後、県内の医師の確保が困難な地域に所在する公的医療機関のうち、知事が指定するもの(指定医療機関)もしくは県立等の保健所に7年間従事した場合に、修学資金の返還が免除される。	③地域枠入学者であれば別途選抜を実施せず貸与	×	○	内科系(内科、総合内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、神経内科)、外科系(外科、消化器外科、整形外科)、救急科、麻酔科、小児科、産婦人科、総合診療科	・診療科領域の制限について、愛知県で「推奨する診療科」(左記)を定めているが、当該診療科以外も個別の状況により対応可能

(※1)○の場合は、備考欄に詳細をご記入ください。
※空欄がある場合は、何も記入せずにそのままご提出ください。

②その他、都道府県と連携した取組があれば、簡潔にご記入ください。(例:在学中の学生に対する都道府県と連携した相談・指導、卒後のキャリアパス形成等に対する支援)(1~2行程度)

取組の名称	取組の概要(1~2行程度)	開始年度
学生の相談と指導(正式名称なし)	卒後の研修先やキャリアパス形成に関する在学中の学生からの質問に対して、都道府県と連携して相談・指導を行っている。	H21以前

※空欄がある場合は、何も記入せずにそのままご提出ください。

3. その他

1~2に記入したものの以外で、その他、地域の医師確保の観点から大学の今後の取組があれば、簡潔にご記入ください。(1~3行程度)
特に、都道府県からの奨学金の貸与を受ける者、地域枠入学者を確保するために貴大学で取り組まれていることや今後の取組み予定がありましたら、ご記入ください。

地域枠の学生の選抜入試に際して、令和2年度入学者の選抜から、面接にかかわる地域医療育学講座教員を増員し、できる限りすべての面接に地域医療関連講座の教員が出席できるようにする案が教授会で承認されている。

2. 研究医養成のための入学定員増について

増員希望人数

(1) 令和2年度研究医養成のための入学定員増について

大学が講ずる措置

※令和元年度までの取組を継続して行う場合には、必要に応じて見直しを行ったうえで、当該取組も記載すること。

1. コンソーシアムの形成

①以下をご記入ください。複数のコンソーシアムを形成している場合には、コンソーシアムごとにご記入ください。

	連携大学	取組の概要(1~3行程度)	(連携先大学が研究医枠による増員を行っている場合) 連携大学との役割分担(※1)	開始年度
No.1	東京大学、京都大学、大阪大学	医学部生向けに研究志向を高めるMD研究者を育成するプログラムを推進し、その研究成果を全国大学間リトリート等において全国の医学部と定期的に共有している。研究医養成のシンポジウムや合同フォーラムを開催し、全国の研究者や医師に研究医養成プログラムを広く知ってもらうための活動を行っている。		H21以前
No.2	名古屋市立大学、三重大学、岐阜大学、浜松医科大学、愛知医科大学、藤田医科大学	東海地区コンソーシアムを立ち上げ、東海地区リトリートを開催した。		H24
No.3				

(※1)過去に研究医枠により入学定員増を実施したことがない大学のみご記入ください。過去に研究医枠による増員を行った大学については、当該欄は記入不要です。

2. 特別コース(※)の設定

(※)「特別コース」とは、学部・大学院教育を一貫して見通した研究医養成のための重点的プログラムを指します。

①特別コースの概要について、5～6行程度で簡潔にご記入ください。その際、平成22年度～令和元年度に実施した取組で継続して行うもののほか、令和2年度に新たに行おうとする取組についてもご記入ください。

(選抜の時期、授業内容、特別コースに入ることにより大学院進学が促進される仕組み(MD-PhD、単位の先行履修、論文認定、キャリア支援の取組など)

推薦入試で選抜した12名と、一般入試の学部学生のうち希望者を対象に、学生研究会ベーシックコースとアドバンスコースを提供している。早期の大学院進学を希望する学部学生に対してMD PhDプログラム(4-6年次)を、大学院進学者に対してMD PhDコースを提供している。名古屋大学医学部附属病院での初期臨床研修プログラムにおいて、研修2年目での大学院進学を認めており、2021年開始を目処に研究医向けの初期臨床研修プログラムを作成中である。

(参考: 記入例)

MD-PhDコースや▲年次での大学院進学を促すとともに、○年次に選抜を行い、「○○」という科目等を開講して～～を学んでいる。学部・大学院での一貫した研究を促すため、△△、□□を行っている。またキャリア支援として、～～を実施している。令和2年度からは、■■を新たに開始するなど、～～を図ることとしている。

②研究医養成のための一貫した特別コースについて、以下をご記入ください。併せて、概要がわかる資料をご提出ください。

選抜の時期 (※1)		コースの名称	年次	募集定員 (※2)	大学院への進学時期 (※3)	開始年度	備考
○	選抜入試	推薦入試		12	MD-PhD PlanA: 4-5年次 MD-PhD PlanB: 卒直後か臨床研修中、研修直後に進学	H22	募集定員は、研究医枠2を含め計12としている。
○	特定の学年次に希望者を募集	MD-PhDコース	4-6年次 卒後	なし	MD-PhD PlanA: 4-5年次 MD-PhD PlanB: 卒直後か臨床研修中、研修直後に進学	H22	コースの定員は設定していないが、選抜を行い、給付型奨学金を年最大5名まで支給している。
	その他(備考欄に詳細を記入)						

(※1)複数段階に分けて選抜を行っている場合には、該当する全てに○をご記入ください。

(※2)最低人数を定めている場合には、「○名以上」という形でご記入ください。

(※3)特別コースの学生の大学院進学時期について全てご記載ください。(例:5年次(MD-PhD)／卒後直後に進学／卒後、臨床研修後に進学／卒後、臨床研修と並行して進学)

③研究医養成のための選抜入試について、以下をご記入ください。

研究医養成のために特別な入試を実施しているか。	○
-------------------------	---

(「○」を選択した場合)以下をご記入するとともに、募集要項の写しをご提出ください。

名称	入試区分	募集人数	うち臨時定員分	選抜方法(※1)	開始年度	備考
推薦入試	(i)推薦入試(指定校推薦を含む)	12	2	選抜は、第1次選考と第2次選考により行います。第1次選考は、提出された志願理由書、推薦書及び調査書並びに大学入試センター試験の成績により約20名の第1次選考合格者(面接選考の受験有資格者)を決定します。第2次選考は、第1次選考合格者に対し、和文と英文の課題を設定し、プレゼンテーションと口頭試問による面接を実施し合格者を決定します。	H22	
合計		12	2			

(※1) 貴大学にて作成予定の学生募集要項の事項をそのままご記入ください。

※複数種類の選抜を行っている場合には、それぞれご記入ください。

※空欄がある場合は、何も記入せずにそのままご提出ください。

④研究医養成のための教育内容(正規科目)について、以下をご記入ください。また、参考としてシラバスの写しをご提出ください。

対象学年	講義・実習名	対象者 (※1)	必修／選択の別		講義／実 習の別	単位数	開始年度
			研究医コース 学生	その他の 学生			
1	基礎セミナーA (推薦入学者用)	研究医コース 学生	必修		講義	2	H22
1	基礎セミナーB (推薦入学者用)	研究医コース 学生	必修		講義	2	H22
1	医学入門(基礎 医学体験実習)	全員	必修	必修	実習	4	H21以前
3	基礎医学セミ ナー	全員	必修	必修	実習	12	H21以前

(※1)対象者は、当該講義・実習を受講可能な学生を「研究医コース学生」「全員」のうちから選択ください。(研究医コース学生の希望者のみの場合は、対象者を「研究医コース学生」、必修／選択の別を「選択」とご記載ください。)

※空欄がある場合は、何も記入せずにそのままご提出ください。

⑤大学の正規科目以外で、研究医養成プログラムがあれば、その内容をご記入ください。

対象学年	プログラム名	対象者 (※1)	期間 (例:○週間)	プログラムの概要(1～2行程度)	開始年度
1-3年次	学生研究会 ベーシックコース	全員	1年次は毎週1 回実施 2-3年次は随時	研究室訪問や休暇中の研究体験などを企画し、医学研究の魅力を伝えるとともに3年生後期の基礎医学セミナーに備えた研究室選択や準備が出来るようにしている。研究医コース(推薦入学者)12名は必修。その他の学生は任意。	H25
1-6年次	学生研究会ア ドバンスドコース	全員	月1回の報告 会を実施 実験を行う	学会発表や研究室訪問の費用をサポートや全国学生リトリートを行い、研究室所属学生のサポートを行っている。参加は任意。	H25
4-6年次	MD PhDプレ プログラム	全員	実験と大学院 講義の受講を 行う	研究医を志望する学生が、大学院での医学研究に早期に取り組めるようにしている。	H27

(※1)対象者は、当該講義・実習を受講可能な学生を「研究医コース学生」「全員」のうちから選択ください。

※空欄がある場合は、何も記入せずにそのままご提出ください。

⑥特別コースに関する取組のうち、以下の項目に関連するものについてご記入ください。なお、必要に応じて内容がわかる資料をご提出ください。

(項目:専用の入試枠の設定による選抜の実施、学生が研究活動を実施するために必要となる研究費の予算措置、学生の学会発表、論文発表の機会の設定及び指導体制の構築、臨床研修により研究活動が中断されることのないようにするための配慮、研究医となった際の常勤ポストの確保、海外での研修の機会(1か月以上))

(項目)	概要(1~2行程度)	開始年度
専用入試枠の設定による選抜の実施	従来の推薦入試枠に、研究医養成の増員分を加えた形で、医学研究者への志向性を持ち、例えば本学のMD・PhDコースへの進学を希望するような人材を選抜している。	H22
学生が研究活動を実施するために必要となる研究費の予算措置	学生の学会参加や研究室訪問に対し旅費助成を行っている。	H23
学生の学会発表、論文発表の機会の設定及び指導体制の構築	3年次後期の6ヶ月間に全員が基礎系および社会医学系の講座・部門に配属され指導を受ける。3月には全員が発表会を行い、教員と学生からなる審査委員より評価を受け、優秀学生は海外・国内の学会や研究室へ派遣され、さらなる発表の機会を得られる。	H21以前
臨床研修により研究活動が中断されることのないようにするための配慮	名古屋大学医学部附属病院での初期臨床研修プログラムにおいて、研修2年目での大学院進学を認めており、2021年開始を目処に研究医向けの初期臨床研修プログラムを作成中である。	H27
研究医となった際の常勤ポストの確保	MD・PhDコースにて大学院を修了後、特任助教へのキャリアパスを設置。	H27
海外での研修の機会(1か月以上)	ジョンズホプキンス大学、ノースカロライナ大学チャペルヒル校、ウーレン大学、フライブルク大学などの一流大学医学部との協定を締結し、約3ヶ月の臨床実習を海外で行っている。	H21以前

※空欄がある場合は、何も記入せずにそのままご提出ください。

⑦上記②～⑥以外に、研究医養成の特別コースに関する取組等があれば、簡潔にご記入ください。(令和元年度以前から継続する取組を含む)(1~2行程度)

取組の名称	取組の概要(1~2行程度)	開始年度

※空欄がある場合は、何も記入せずにそのままご提出ください。

⑧特別コースの履修者の確保状況について、以下をご記入ください。

	H29	H30	R1	直近3年間の平均
人数(名)	12	13	12	12.33333333

※当該年度の新規履修者のみを計上してください。

3. 奨学金の設定

① 卒後一定期間の研究医としての従事を要件とする奨学金の設定について、以下をご記入ください。
複数の奨学金を設定している場合には、それぞれについてご記入ください。

	名称	設定主体 (例: 大学、 〇〇財団)	給付／貸与 の別	支給対象	募集人数	選抜の有無	支給期間 (例: 大学院1～3年次(3年 間))
No.1	基礎医学系研究者養成コース(武田科学振興財団医学博士課程奨学生)	武田科学振興財団	給付	特別コース生以外も可能	2	有	大学院1～4年次(4年間)
No.2	次世代医学研究者養成コース(医学研究者奨学生)	名古屋大学医学部	給付	特別コース生以外も可能	最大3	有	大学院1～4年次(4年間)
No.3							

(続き)

	支給額 (例: 200,000)		返還免除要件	開始年度	備考
	月額	総支給額			
No.1	300,000	14,400,000	大学院修了後に一定期間(5年程度で調整中)研究医として従事するよう努める旨の誓約書の提出。	H24	誓約書の提出については、令和2年度からの運用を予定。
No.2	250,000	12,000,000	大学院修了後に一定期間(5年程度で調整中)研究医として従事するよう努める旨の誓約書の提出。(違反があった場合、返還を求めることがある。)	H24	誓約書の提出については、令和2年度からの運用を予定。
No.3					

※空欄がある場合は、何も記入せずにそのままご提出ください。

(2) 研究医養成拠点として相応しい実績

①-1. 継続的に大学院生を輩出してきた客観的な実績について、以下をご記入ください。

(入学年度)	H29	H30	R1	直近3年間の平均
基礎・社会系大学院進学者数〔A〕	39	41	28	36
臨床系大学院進学者数〔B〕	152	126	127	135

MD,non-MD,留学生を合算した全進学者数です。

(博士課程修了年度)	H28	H29	H30	直近3年間の平均
〔A〕の修了者数〔C〕	12	11	8	10.33333333
〔B〕のうち、基礎・社会学系の論文(又は共著論文)を執筆した修了者数〔D〕				#DIV/0!
合計	12	11	8	10.33333333

MDのみの修了者数です。

①-2. その他、継続的に大学院生を輩出してきた客観的な実績があれば、簡潔にご記入ください。(1~3行程度)

②-1. 継続的に研究医を輩出してきた客観的な実績について、以下をご記入ください。

(博士課程修了年度)	H28	H29	H30	直近3年間の平均
〔C〕〔D〕のうち、基礎・社会学研究分野の就職者数	6	4	3	4.33333333
〔C〕〔D〕のうち、臨床系に就職したが基礎・社会学研究に従事する者等の数(※1)				#DIV/0!
合計	6	4	3	4.33333333

MDのみの就職者数です。

(※1) 一度臨床系(基礎系以外)に進んだものの実態としては研究に従事している又は従事する見込みがある者の数。

(例: 臨床医として働きながら研究活動を行っている者、常勤ポストではないが大学の身分を有し研究活動を行っている者、現在臨床医として勤務しているが将来的に研究に従事する意思を大学が確認している者)

②-2. その他、継続的に研究医を輩出してきた客観的な実績があれば、簡潔にご記入ください。(1~3行程度)

③大学教育改革の支援に関する補助事業の採択実績等
 ※必要に応じて内容がわかる資料をご提出ください。

採択事業名	採択年度 (○年度～ ○年度)	概要(1～3行程度)
基礎医学研究者育成プロジェクト	平成23年度～27年度	東京大学、京都大学、大阪大学と連携し、医学部生向けに研究志向を高めMD研究者を育成するプログラムを推進。
世界をリードする次世代MD研究者育成プロジェクト	平成28年度～令和2年度	東京大学、京都大学、大阪大学と連携し、医学部生向けに研究志向を高めMD研究者を育成するプログラムを推進。
基礎研究医養成活性化プログラム	平成29年度～令和3年度	名古屋市立大学、三重大学、岐阜大学、浜松医科大学、愛知医科大学と連携し、研究志向の病理医、法医を育成。

④他大学と比較した際に研究医養成拠点として相応しいと考えられる客観的な実績(科学研究費採択率等)
 ※必要に応じて内容がわかる資料をご提出ください。

概要(1～3行程度)
科学研究費については、平成30年度の名古屋大学の新規採択率が30.9%、医学系研究科は37.1%となっており、全平均24.9%、国立大学平均27.8%を上回っている。また、中区分別採択件数は、医学系の複数の関連分野において上位10機関にランクインしている。

(3)過去に研究医枠による入学定員増を実施した場合の令和元年度における状況

①過去に入学定員増を実施した際に計画していた研究医養成に関する取組について、その有効性が高いことを確認している旨を、確認方法等とともにご記入ください。
 (例:第三者による評価、学内委員会による評価)

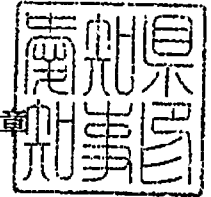
平成25年12月と平成31年3月に自己点検評価および外部評価を行い、本学の研究医養成プログラムについて高い評価を受けている。
--



31 医務第1406号
令和元年9月6日

厚生労働省医政局長 殿

愛知県知事 大村秀章



令和2年度医学部入学定員の増員に伴う対応について

このことについては、令和元年9月2日付け元文科高第391号、医政医発0902第3号の通知に基づき、名古屋大学始め4大学の医学部において、令和元年度で終了する医学部入学定員の臨時的な定員計32名について、下記のとおり再度の定員増の実施が計画されています。

本県では、この入学定員増については、地域の医師確保等に関する計画及び「地域における医療及び介護の総合的な確保の促進に関する法律」（平成元年法律第64号）第4条に規定される都道府県計画等に位置付けてまいります。

記

令和2年度医学部入学定員の増員計画（計32名）の内訳

- ・名古屋大学 5名
- ・名古屋市立大学 7名
- ・愛知医科大学 10名
- ・藤田医科大学 10名

担 当 保健医療局健康医務部
医務課地域医療支援室
医師確保推進グループ（酒井）

電 話 052-954-6659

E-mail chiikiiryousien@pref.aichi.lg.jp